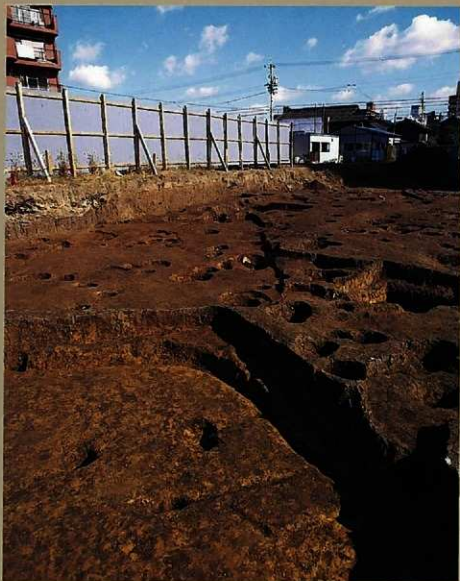


伊勢山中学校遺跡

— 第6次発掘調査の概要 —

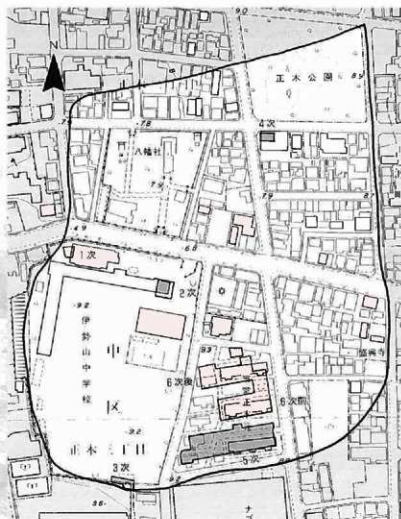


1997

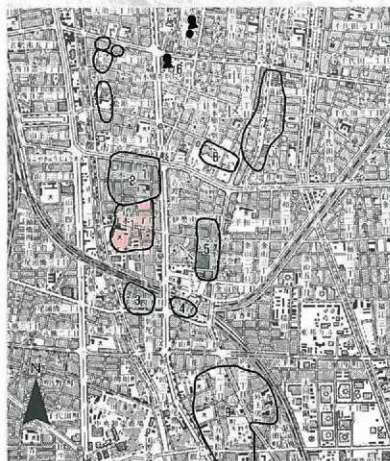
名古屋市教育委員会

例言

1. 本書は、伊勢山中学校遺跡第6次発掘調査の概要報告書である。調査地点は名古屋市中区正木三丁目4番である。
2. 調査は5次調査に引き続き市営住宅の建設工事に伴うもので約1300㎡を対象とした。
3. 調査期間は、平成8年8月19日から平成8年11月29日まで行なった。
4. 調査は名古屋市教育局が実施し、名古屋市見附台考古資料館学芸員水野裕之・服部哲也が担当した。
5. 調査および資料整理については脇田朋美、榎垣美生の協力を得た。
6. 出土遺物および記録類は、名古屋市見附台考古資料館が保管している。
7. 本書は服部が執筆した。



第2図 調査地点図



1. 伊勢山中学校遺跡
2. 正木町遺跡
3. 尾張元興寺跡
4. 東古渡町遺跡
5. 古沢町遺跡
6. 大須二子山古墳
7. 富士見町遺跡
8. 古渡城跡
9. 高懸遺跡

第1図 位置と周辺の遺跡



写真1 SD13出土の馬骨

I 位置と環境

伊勢山中学校遺跡の所在する中区は名古屋市のほぼ中央に位置する。遺跡の中心は金山総合駅から北西へ約600mの距離にある。地形的には名古屋台地が島状に突出した通称熱田台地西端に立地し、標高は7～10mである。周辺には正木町遺跡・古沢町遺跡・尾張元興寺跡・東古渡町遺跡などの重要な遺跡が集中している(第1図)。今後は、これらを広く遺跡群として捉え、検討する必要がある。

II 遺跡の概要

遺跡の推定範囲は約300m四方で、過去5回にわたり発掘調査を行なっている(第2図)。いずれも小規模な調査であり、遺跡の全体像を明かにするにはいたっていないが、弥生時代から近世まで続く複合遺跡で、特に古墳時代から古代の集落を中心とすることがわかってきた。古代以前においては、遺跡地西側は海であったと推定されることから、海上交通上の要所の遺跡といえよう。

III 調査の経過

調査は市営住宅「正木荘」の建て替え工事に伴うもので、南棟地点の5次調査に引続き、北棟及び駐車場の一部を対象とした。土置きスペース等の関係から、駐車場・ポンプ室地点を前半区、住

宅棟地点を後半区として2回に分けて行なったが、既に破壊されていた旧住宅棟の部分は調査対象外としたため、きわめて変則的な調査区となった。

なお、排土工事は丹羽造園(株)、基本平面図作成業務委託は(株)パスコと契約した。

日誌抄

8月9日	関係各業者と契約。
8月22日	前半区表土除去開始。
!	この間前半区調査
9月27日	前半区空中写真測量。
10月1日	前半区調査終了。埋め戻し。
10月7日	後半区表土除去開始。
!	この間後半区調査
11月19日	後半区空中写真測量。
11月24日	現地説明会開催。参加者280名。
11月26日	SK46機械による断り割り調査。
11月29日	埋め戻し完了。調査終了。



写真3 現地説明会風景

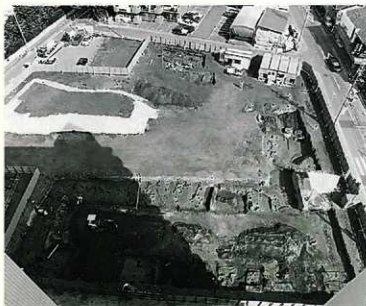
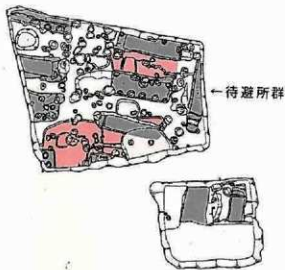


写真2 前半区全景



写真4 後半区全景

- 古墳～奈良・平安時代
- 鎌倉～戦国時代
- 江戸時代
- 明治時代以降



写真B 待遊所(防空壕)群

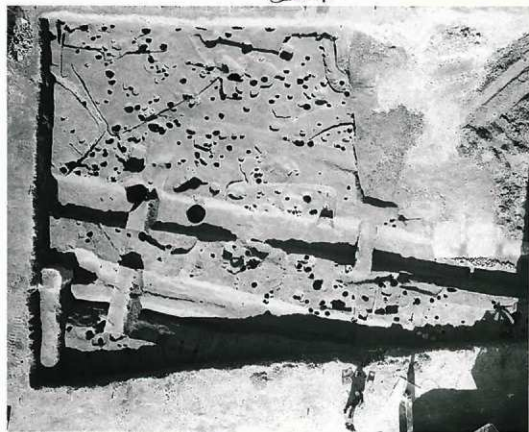
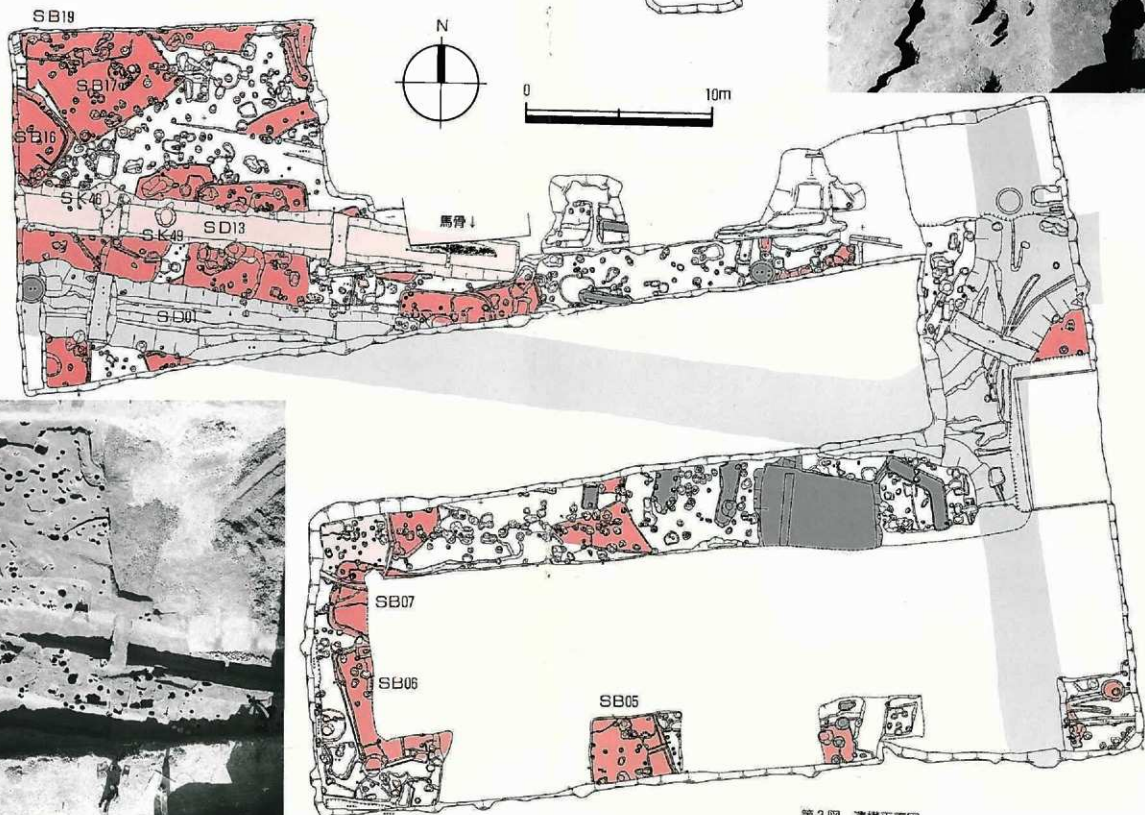


写真6 調査区西遺構群空中写真

第3図 遺構平面図



写真7 SB05



写真8 SB06



写真9 SB13土師器出土状況



写真10 SB16(手前)SB17(人物地点)



写真11 SB16の貯蔵穴および間仕切り検出状況

IV 調査の内容

弥生時代以前 前回の調査では、弥生時代中期(後半=高蔵式)の住居跡が見つかり、当地点で人が活動し始めたのがこの時期と推定できる。ただし、今回は弥生土器や石鏃などがわずかに出土したにとどまる。

古墳時代～奈良・平安時代 可能性のあるものを含めて約25軒の住居跡を検出した。大半が方形プランの竪穴式住居跡で、一辺は4～7mをはかる。ただし、後の時代の削平が著しく遺存度は悪い。なお、住居内に竈が確認できたものはない。

SB05は四隅が不明なため規模は確定できないが、竪穴住居の壁際を約1mの幅で掘り穿めた床面下の施設(生活時は埋没。意味、用途不明)をもつ。この埋土から5世紀代の土師器が出土した。

SB06・07は壁際に幅30～40cmの溝(溝底に柱跡はない)が巡る住居跡。SB06は一辺約7m、SB07は一辺約4mを測る。住居内は「竪穴」にならないことから平地式の掘立柱建物と推定する。

SB13は一辺約5mの方形プランの竪穴住居跡でSB12に切られる。床面直上より土師器の小型壺・はそう・甕(5世紀前半)が出土した。

SB16は一部調査区外となっているが、最も残りがよい。壁際には溝が巡り、柱穴と間仕切りに画された貯蔵穴を検出した。SB17を僅かに切る。

SB17は一辺約6mの方形プランの竪穴住居跡で、主柱穴4本(柱間約3m)を確認した。

鎌倉時代～戦国時代 溝・土坑・井戸等を検出した。

SD13は幅約3m、深さ約1mの規模を測り、調査区西端から東へ約27m地点で終わっている。埋土は基本的に暗褐色砂質土（上層）と暗褐色土（下層）の二層で、暗褐色土の一部に貝殻が集中する地点があった。また、東端の下層中には、数体分の馬の骨が集中したが、埋葬や祭祀とは考え難く、解体後の廃棄と推定した。埋土中からは13～14世紀の古瀬戸・山茶碗を中心に中世陶器が多く出土したが、陶製の瓦も相当量出土し注目された。造構の性格としては、屋敷地を囲む堀が推定され、中には瓦葺きの建物が想定できよう。

SK46・49はSD13埋没後に掘られた造構で、SK49は素掘りの井戸である。SK46は深さ約3、5m、底径約4、5mの巨大な袋状土坑で、土坑内には貝を多量にふくむ暗茶褐色土が厚く堆積した。埋土中からは16世紀までの中世陶器や瓦が多く出土したが、床面に据えられた状況のものはない。遺構の性格としては、所謂中世地下式塼（塼）の可能性があり、名古屋城三の丸遺跡等で同様な例が出土している。

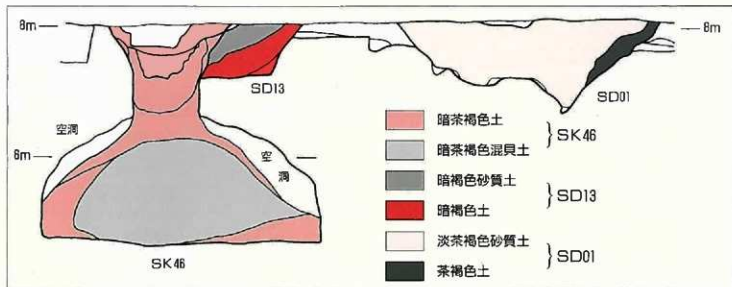
江戸時代 近世における当地点は、絵図等により畑地であったと推定できるが、大きな用水路を発見した。ただし、その規模が立派（幅約4m、深



写真12 SD13



写真13 SK46



第4図 SK46・SD13・SD01断面図

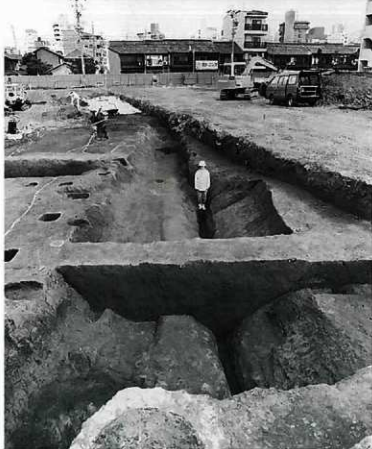


写真14 SD01

さ約1.5mで、2段になっている) すぎることから、堀として戦国時代頃に造られたもの(SK46・49の時期)が、その後用水として再利用された可能性があらう。

明治時代以降 太平洋戦争中に掘られた退避所(防空壕)が集中して見つかった。当地には明治時代以降、紡績工場が作られていたが、戦中は愛知時計電気の軍需工場に転換されており、工場は空襲で焼失している。

V おわりに

今回の調査では、おもに古墳時代から古代の集落跡にかかわる資料と、中世・戦国時代の屋敷跡にかかわる資料を追加した。今後は、現在未整理の遺物の検討のみならず、広く周辺遺跡の動向をも考慮して、当遺跡の解明に努めていきたい。

報告書抄録

ふりがな	いせやまちゅうがっこういせきだい6じはくつちょうさのかいよう						
書名	伊勢山中学校遺跡—第6次発掘調査の概要—						
編著者名	服部哲也						
編集機関	名古屋市見晴台考古資料館						
所在地	〒457 愛知県名古屋市南区見晴町47番地 Tel 052-823-3200						
発行年月日	西暦1997年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 °	東経 °	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
伊勢山 中学校	名古屋市 中区 正木三丁目4番	23100 7-20	35度 8分 35秒	136度 54分 00秒	1996 8.19~11.29	1300	市営住宅建 設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
伊勢山中 学校遺跡	集落跡	古墳・古代 中世	住居跡 溝・土坑	土師器・須恵器 陶磁器・瓦			

伊勢山中学校遺跡
第6次発掘調査の概要

1997年3月31日

編集 名古屋市見晴台考古資料館
名古屋市南区見晴町47

Tel (052) 823-3200

発行 名古屋市教育委員会

印刷 (有)ダイアローク